

各位

平成31年度第1回定例会を終えて（幹事長談話）

無所属 東京みらいは、平成31年度東京都予算を始めとする知事提出の全議案に賛成いたしました。来年度予算については、「真の稼ぐ力」を育てるための「価値観の転換」をテーマに質疑を重ねてまいりました。世界中からヒト・モノ・お金・情報をひきつける、東京の「磁力」を高めるためには、これまで当たり前とされてきた価値観を変える勇気が必要です。

とりわけ、わが会派では以下3つの観点から本予算に賛成しました。

- 一つ、ジェンダーや年齢、障害の有無に関わらず、誰もが輝く「真のダイバーシティ」の実現
- 二つ、文化の力を最大限に引き出した、「世界一のクオリティオブライフ」の実現
- 三つ、一人一人の可能性を信じ「自分らしく幸せな人生を叶える教育」の実現

本予算案に賛成するからこそその責任として、今後の予算執行を注視していく所存であり、また、2020年度以降の予算編成プロセスにおいては、来年度試行される政策評価の取組を組み込んでいただくことを検討するよう求めました。

東京都子供への虐待の防止等に関する条例については、保護者等の体罰禁止や警察との連携強化などが明記されました。この条例を起点として、児童虐待根絶に向けた多面的な施策を求め、各施策の進捗確認に努めてまいります。

来年度は3つの組織再編が行われますが、次世代の社会構造や社会課題の多様化、加速度的な社会の変化を見据えれば、組織再編の検討をより一層進めるべきです。実情や将来の課題について、広く都民の皆様にご理解いただくことが重要であるとの考えから、「都政の見える化」をより一層進めていただくことを求めました。

新会派として、本定例会の議事運営に携わる中で、都議会が大切にしてきた慣例には、先人の知恵が刻み込まれていることを実感した次第です。主張が異なる会派同士で、お互いの立場を尊重しつつ、一致点を見つけようとするプロセスは重要であり、その手間を惜しんではいけない、これまで大切にしてきた原理原則を無視してはいけないと思に至りました。

一方、都庁のみならず、日本社会全体で「働き方改革」を進めようという動きがある中で、1370万を超える都民の声を受け止め、代弁するという役割を果たすために、子育てや介護を担う人、障害者などの多様な人材が議会で活躍していくためには、開会時刻の前倒しや終了時刻のルール化、審議日程の弾力化など、より時代に合った都民目線の改革を進めていくことも必要です。今後の議会改革の議論においては、こうした点も遡上にのぼるよう期待するとともに、少数会派の機動力を活かして、貢献していきます。

最後に、予算案の賛否が分かれてきましたが、各会派、各議員がそれぞれの政治信条に従い、決断したものであり、そのどれもが尊重されるべきと考えます。引き続き、都民の代表者たる議員の職責を全うすべく、切磋琢磨しながら、より良い都政に尽力していきます。

無所属 東京みらい
幹事長 おくざわ高広

本件に関するお問い合わせは、奥澤高広までお願いします。

TEL:03-5320-7278 FAX:03-5388-1829

Email:team.tokyo.mirai@gmail.com